

内閣府 第2回総合知活用事例

①総合知活用の実践を行う事例

安心して最期まで住み続けられる スマートエイジングシティの実現

© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved.

大阪市城東区役所
社会医療法人大道会森之宮病院
独立行政法人都市再生機構西日本支社
大阪公立大学
(報告者: 樋口由美)



交通量の多い幹線道路と河川に囲まれた都心の集合住宅地域

人口減少・
顕著な少子高齢化（高齢化率34.7%）

高齢単独世帯の
孤立化
（高齢者の単独
世帯47.7%）



都心集合住宅特有
の災害時安否確認
の困難性

COVID-19感染拡大後の
フレイル高齢者の増加

地域の専門知×大学の総合知

地域の課題整理のために隔月で会議開催→多様な知の連結を実現

 大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
森之宮キャンパス(2025年秋)

リハビリテーション学 文学

情報学 生活科学

都市科学・防災学

都市健康・スポーツ科学



 UR 都市機構

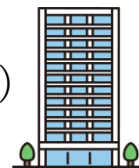
地域の住環境を提供
(UR森之宮団地・UR森之宮第2団地)

2022年10月
協定



自治体
(大阪市城東区役所)

地域行政



社会医療法人大道会
森之宮病院

地域医療
の中核

 社会医療法人大道会
森之宮病院

参画する
ステークホルダー

地域住民自治会

社会福祉法人

保育園

URコミュニティ

地域包括支援

センター

社会福祉協議会

薬局

民間企業

連携
(隔月
会議)

目指すべき未来の社会像

健康寿命の延伸、生涯にわたるQOLの向上、安心して最期まで住み続けられる創造的な生活環境を実現するまちづくりを目指す

- 地域コミュニティの活性化
- 地域包括ケアシステムの拡充
- 地域リハビリテーションの推進
- 生活支援分野におけるサービスの充実
- 健康寿命延伸のためのヘルスケア分野における
サービスの充実
- 防災・減災に関すること
- ICT利活用の促進及び、持続可能なまちづくり
- 多世代が暮らす魅力あるまちづくり



デジタル技術×地域医療×建築×リハビリテーション学

ICTを活用した次世代の住まい方を実現—UR団地モデルルームの開発—

遠隔リハビリの環境整備

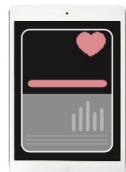


テレビ電話機能でリアルタイムでの
体操教室受講も可能

ウェアラブル端末
のデータ解析に
よる健康状態の
可視化



スマートウォッチ
で計測



タブレットで
健康状態を可視化

室内赤外線センサーによる住居者の転倒、
健康障害の早期発見

健康を維持できる住まい方を体験

健康障害を予防する住環境の紹介、
在宅医療の環境体験、初期認知症支援の
知識普及

転倒予防・介護予防のお部屋



介護・医療のお部屋



認知症を知るお部屋



- 最新の転倒予防の知見を可視化、体験
- 賃貸で実現する在宅介護・療養の環境
- 認知症を知り、お互いを理解するコミュニティ

長く自宅で暮らす術を可視化

リハビリテーション学×ICT×住環境



高齢者の孤立化防止、フレイル改善へ向けた集合住宅内における活動
—Morinomiya Active AGE（もりあげ）プロジェクト—



初心者向けのスマホ教室



自宅で ちょっと運動



歩き方の指導・実践



健康づくりに関する知識

知識、情報を普及する側へ

高齢住民による「もりあげサポーター活動」



ソーシャルネットワークの拡大、身体的・社会的フレイルの解消

都市防災学 × 地域医療 × デジタル技術 × 行政



これまでに取り組んだこと(進行中含む)

- 災害時の救援に関する調査
- 救護備品の整備、救援マニュアルの整備
- 地域防災SNSの整備・運用
- 防災事業の企画
- 安否確認の訓練

リハビリテーション学×行政×スポーツ科学

ユニバーサルスポーツ（ボッチャ）を介した多世代の「つながる場」



身体的
フレイル対策

多世代交流の
ツール

ボッチャ

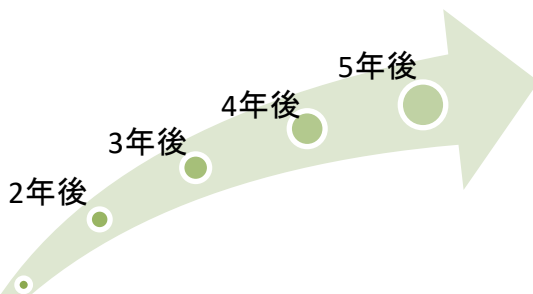
孤立、孤独感の
低減

つながる・集い
の場

- 交流を楽しむ
- ボッチャを楽しむ
- スポーツとして極める
- 審判ができるように
- 運営できるように

生み出された新たな総合知

多様な専門知の多角的な連携による研究拠点の開設



Well-being共創研究センター

リハビリテーション学

情報学

都市科学・防災学

生活科学

文学

2024年6月現在

目指すところ

高齢者、障害者が地域の担い手・支える側へのパラダイムシフトを目指す
「森之宮モデル」構築

- 就労移行支援事業所との連携
- 住民のセルフモニタリング促進
- 情報普及、担い手の養成
- コミュニティ拠点・場の展開
- 住民のWell-beingへ寄与